

(様式1)

自己評価票

3F

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>理念に基づく運営</b>			
<b>1. 理念と共有</b>			
1	<p>地域密着型サービスとしての理念</p> <p>地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている</p>	<p>施設創設者が理念として掲げているいくつかの柱の第一が「ご利用者が主人公」であり、「尊厳を保つ」「いきいきとした生活」「認知症の進行の防止」と併せて、「地域社会と共に」であり、地域のボランティアを受け入れたり、地域自治会の子ども会を行事に招待したり等共同生活に努めている。</p>	<p>各フロアとも自治会とのお付き合いと共に、地域社協が主催する行事にも積極的に取り組んでおり、参加した入居者も満面に喜びを現し楽しんで頂いている。</p>
2	<p>理念の共有と日々の取り組み</p> <p>管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる</p>	<p>フロア、スタッフルームに掲示し、常にスタッフが利用者と接する際の心構えにしている。定例のフロア会議の最初に職員が唱和し、支援課題を議論する時の原点としている。</p>	<p>職員も行動の規範として、常に、五つの運営理念を心に留めている。管理者も、現場の運営に当たって自らも率先し、職員と共に理念から逸脱の無いよう点検している。</p>
3	<p>家族や地域への理念の浸透</p> <p>事業所は、利用者が地域の中で暮らし続けることを大切にしたい理念を、家族や地域の人々に理解してもらえよう取り組んでいる</p>	<p>入居者の健康悪化や事故発生時の家族説明、その際の家族からの疑問や不安に対して、当施設の運営理念を説明する絶好の機会として位置づけ、社長を先頭にセンター長、管理者が時間を惜しまず説明し、家族の安心と共感を得ている。</p>	<p>入居者の入院が長引き、家族がホームに戻る方が心配された時も、一刻も早くホームに戻る方が認知症の進行の防止に繋がることを説明し、通常ではホーム帰還が困難と思われる程の状態であったが、リハビリを含めた介護サマリーを入院中の病院に提供して頂き、それに基づくチームケアにより介護体制を構築し退院を実現してきた。</p>
<b>2. 地域との支えあい</b>			
4	<p>隣近所とのつきあい</p> <p>管理者や職員は、隣近所の人と気軽に声をかけ合ったり、気軽に立ち寄ってもらえるような日常的なつきあいができるように努めている</p>	<p>近隣の貸し農園の住民からキュウリ等の野菜の差し入れを頂いたり、看護師資格を持っている隣の奥さんにパートで看護師として就労していただく等、地域からも好意を持って近隣づきあいを行って頂いている。</p>	<p>施設の属する町会の長寿会の活動は、あまり活発でないと聞いているが、社会福祉協議会の行事や近隣の企業が主催する「夏祭り」に参加させて頂いている。</p>
5	<p>地域とのつきあい</p> <p>事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている</p>	<p>施設の所属する長寿会の活動はあまり活発でないと聞いているが、代表者の方には、運営推進会議の地域代表としてご協力いただいております、ソフト面でのバックアップ協力を頂いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
6 事業所の力を活かした地域貢献  利用者への支援を基盤に、事業所や職員の状況や力に応じて、地域の高齢者等の暮らしに役立つことがないか話し合い、取り組んでいる	地域包括支援センターを軸とした市内7ブロックの地域会議には全て出席し、地域内の事業者間の協力関係を大切に、更に、地域会議に出席される民生委員や福祉委員・町会役員との交流にも努めている。		介護保険の導入により、高齢者福祉が社会保険として展開され、保険料納付の反対給付として、権利として高齢者介護サービスが給付されるようになってから、民生委員と高齢者との繋がりが希薄になりつつあるように見受けられる。非常災害時の地域ネットワークの構築の重要性が再認識される一方で、個人情報の関係から情報の共有化が遮断されている感が否めない。
<b>3. 理念を実践するための制度の理解と活用</b>			
7 評価の意義の理解と活用  運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	自己評価・外部評価のポイントや課題を、新しい職員に伝達する機会が少なくなっている。運営理念を大切にして日常業務に精励しているので、結果として大きく外れる事は無いと思うが、目的意識的に自己評価・外部評価を考える事により、運営理念の深みを会得したい。		日常の業務マニュアルを守り、運営理念を支柱として、入居者支援に努めれば、結果として、自己評価・外部評価の意義から逸れる事はないと思うが、評価結果を全員で確認し、取り組みの深みを身につけるように心掛けたい。
8 運営推進会議を活かした取り組み  運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	施設の運営状況の報告、各フロア独自のユニットケアの取り組みを通して、入居者の新しい楽しみや能力を発見した時の喜び等をご家族様に報告したり、ご家族との協同作業が認知症のアセスメント(センター方式)にとって、介護サービス計画の作成上、大変重要である事を訴え協力を求めている。		ユニットケアの特長を活かしたフロア毎の独自の取り組み報告が、日常の全体会議では味わえない家族の反応を呼び、それが職員の刺激となり、入居者の能力再発掘の課題追及をしようと職員から提案等が出されている。
9 市町村との連携  事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	市町村は集団指導等や情報公開等に軸足を移し、上からの指導責任の重圧に苦心されておられるようだが、今まで以上に、目線を事業者のレベルに落として頂き、気さくに事業者を回る心遣いが欲しい。		指導・被指導の関係だけでなく、制度開設当時の様に、事業所との協同作業で、地域密着型サービスをどのように構築し、展開をしていくのかを考えて欲しい。
10 権利擁護に関する制度の理解と活用  管理者や職員は、地域権利擁護事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、必要な人にはそれらを活用できるよう支援している	現在、財産管理・後見人等の指定をしておられる入居者が2名居られるが、入居者全体の高齢化の進行や、老々介護の実態、更には、認知症状の特性から、現在は、発生していないが金銭管理のトラブル発生も回避できない問題として、家族だけでなく、職員を含めた制度理解の浸透、手軽な利用を可能とする制度普及が求められる。		家族と施設・職員との信頼関係を基盤に現時点では、小口現金は施設で、財産は家族が責任を持つ体制になっている。家族の高齢化と併せ、親族であることを持って、即、後見人にスライドできない法制度だけに運用の簡素化が待望される。

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
11 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内で虐待が見過ごされることがないよう注意を払い、防止に努めている	ストレートな身体拘束はもとより、ドアの施錠もなく、入居者への抑圧感・閉塞感に配慮し、ストレスが溜まらないよう心掛けている。昨年法制化された高齢者虐待防止法も事業者側のスタッフが問題を発生させる事の無い様、運営理念にある「尊厳」を肝に銘じ、未然防止に努めている。		当社併設のデイサービス利用者の家庭で発生した虐待事例だが、市に報告した処、当社ケアマネで事例検討を行う様の指示に止まった。止む無く別居の家族を呼びそこからの説得で再発防止に努め表面的には沈静しているようだが、再発の危険性は解消していない。今回の市の対応は明らかに、通報者に問題決を迫っており、通報者を守る新法の趣旨に反し誤りである。
<b>4. 理念を実践するための体制</b>			
12 契約に関する説明と納得 契約を結んだり解約をする際は、利用者や家族等の不安、疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	契約の前段の相談・見学の段階でアウトラインの理解を得ているが、その段階で、他のホームを見学された方の当ホームの入所希望者が非常に多い。実際の契約段階でも、入居の程、重要事項説明書と契約書で時間を掛けて説明し、十分納得を頂いたうえで、契約を交わしている。		併設のデイサービスで無料体験サービスをご利用頂き、グループホームの計画作成担当者・管理者等がそのデイでの一日の生活を様子観察をしながら相談に応じている。これは、利用者にとってもいきなり新施設に入所するのではなく、わずか一日であっても新環境に順応する上での配慮に繋がっている。
13 運営に関する利用者意見の反映 利用者が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時には、担当職員やリーダーが必ずご家族とお話し、面会前のご利用者の健康・生活状況を報告させて頂き、お帰りの際のご家族のご要望・ご意見は、ケース記録に記載すると共に、爾後の支援に活かすようにしている。		苦情相談組織図を施設内に掲示する共に、面会に来られた御家族様からのご意見・ご要望も気軽に意思表示出来る様、意見箱の設置も考えているが、現時点では、ご家族の皆様から忌憚の無いご意見を頂木、十分にこみゆにけーしょんをが図れていると考えている。
14 家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	何か異変があった時だけの報告に止まらず、日常の暮らしぶり、イベントでのエピソード等を定期的にお手紙や電話でお知らせしている。その他請求書の送付時等定期的に、「お小遣いの収支報告書」、3ヶ月毎の「ケアプラン」の報告を行っている。		「お便り報告書」等、チームケアを担うスタッフ全体が利用者の情報を共有化出来る様、回覧する等、職員間に認識やサービスの質の不均衡が生じないように業務連絡等に注意を払っている。
15 運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時、家族会、家族へのお便り、機関紙「プラティア通信」、更には、運営推進会議等のさまざまな機会を通して、ご家族からのご意見・ご要望をお聞きしている。		家族を施設に預けている立場を我が身に置き換えた場合、利用者が何処まで本音で希望を意思表示できているか、利用者の複雑な心境を職員一人一人が親身になって考え、「気付き」を大切に、職員同士が注意しあえる雰囲気や養いたい。
16 運営に関する職員意見の反映 運営者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月、フロア毎のフロア会議、2・3階の全体会議、リーダー会議等を行っており、職員からの提案・要望を聞いている。		各事業年度ごとに事業計画や事業報告を年1回作成し、一年毎の重点目標を設定し、メリハリの事業運営を目指したい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
17	<p>柔軟な対応に向けた勤務調整</p> <p>利用者や家族の状況の変化、要望に柔軟な対応ができるよう、必要な時間帯に職員を確保するための話し合いや勤務の調整に努めている</p>		<p>4週8級、週40時間の労基法の基準を最低に、4週8休の内、月二回の希望休も入れた勤務シフトをリーダーに作成させており、利用者本位の支援を行う上での職員のモチベーションの高揚にも配慮している。9人の利用者に常勤換算8名を確保し、利用者の急の要望にも応える事の出来る柔軟な体制を引敷いている。</p>
18	<p>職員の異動等による影響への配慮</p> <p>運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている</p>		<p>今日の社会情勢が介護職に厳しく、職員の定着性は決して高くは無いが、当社の運営方針が「利用者本位」であることについて、職員の理解は図られている。職員も安易に過酷な勤務体制であるとは捉えておらず、利用者本位とチームケアの徹底により、効率的な勤務割を柱に協力し合っている。</p>
5. 人材の育成と支援			
19	<p>職員を育てる取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている</p>		<p>結果として、計画通りに進んでいない面もあるが、少しずつ着実に進めており、今後とも職員のスキルアップを図って生きたい。</p>
20	<p>同業者との交流を通じた向上</p> <p>運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている</p>		<p>東大阪市居宅介護支援事業者連絡会、八尾市同事業者連絡会、東大阪市地域包括支援センター7地域別会議、その他社会福祉事業者対象の各種研修会等に積極的に参加する他、新規採用者を対象にした認知症研修を企業内で行っている。</p>
21	<p>職員のストレス軽減に向けた取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員のストレスを軽減するための工夫や環境づくりに取り組んでいる</p>		<p>職員が直接経営者に意見具申するフランクな雰囲気があり、車内の風通しも良く、問題を一人で抱え込んで、バーンアウトしないよう、未然に問題職員を把握するよう、経営者が率先して取り組んでいる。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
22	<p>向上心を持って働き続けるための取り組み</p> <p>運営者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、各自が向上心を持って働けるように努めている</p>		
<p><b>安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b></p> <p><b>1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応</b></p>			
23	<p>初めに築く本人との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに本人が困っていること、不安なこと、求めていること等を本人自身からよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
24	<p>初めに築く家族との信頼関係</p> <p>相談から利用に至るまでに家族等が困っていること、不安なこと、求めていること等をよく聴く機会をつくり、受けとめる努力をしている</p>		
25	<p>初期対応の見極めと支援</p> <p>相談を受けた時に、本人と家族が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている</p>		<p>本人・ご家族の意思や要望について、充分話し合い、必要な支援をいろいろな角度から見極めて行きたい。</p>
26	<p>馴染みながらのサービス利用</p> <p>本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している</p>		

項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援</b>			
27	<p>本人と共に過ごし支えあう関係</p> <p>職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている</p>	<p>礼儀や尊敬を忘れない対応・ケアに努めている。</p>	
28	<p>本人と共に支えあう家族との関係</p> <p>職員は、家族を支援される一方の立場におかず、喜怒哀楽を共にし、一緒に本人を支えていく関係を築いている</p>	<p>家族だよりとして2ヶ月に1回、写真を同封したりお便りを送付し、近況を報告を行っている。今後は担当者による電話連絡により家族とのコミュニケーションを深め、共に支え合う関係を築きたい。</p>	<p>面会時には積極的なコミュニケーションを図り、信頼関係を深めて行きたい。</p>
29	<p>本人と家族のよりよい関係に向けた支援</p> <p>これまでの本人と家族との関係の理解に努め、より良い関係が築いていけるように支援している</p>	<p>面会制限時間はなく、いつでも自由に面会でき、居室やリビングで一緒に食事を摂られたり、居室で昼寝等をされる家族もおられ、気兼ねなく訪問して頂ける環境や対応に心掛けている。</p>	
30	<p>馴染みの人や場との関係継続の支援</p> <p>本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている</p>	<p>外出援助を通し、馴染みの食堂や散髪屋、職場や自宅、生まれ育った地域や思い出の場所等へ積極的に出掛けられるよう支援している。</p>	<p>関係者全員が共通の視点を持ち、利用者本位に立った支援を行って行きたい。</p>
31	<p>利用者同士の関係の支援</p> <p>利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるように努めている</p>	<p>利用者同士の関係や不満等を把握し、円滑な人間関係を維持出来る様、スタッフが上手く間に入る等、一人ひとりに合わせた対応を行っている。</p>	
32	<p>関係を断ち切らない取り組み</p> <p>サービス利用(契約)が終了しても、継続的な関わりを必要とする利用者や家族には、関係を断ち切らないお付き合いを大切にしている</p>	<p>入院や他施設へ移られ、契約が終了しても、家族と連絡をとり、ご様子等を伺っている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
<b>.その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>			
<b>1.一人ひとりの把握</b>			
33	<p>思いや意向の把握</p> <p>一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している</p>	<p>「ご入居者が主人公」という運営方針の下、その方らしく生活して頂ける様、本人が何を求め、どのような暮らしを望んでおられるか、日々ケアの見直し、改善に取り組んでいる。</p>	<p>コミュニケーションを常に行い、本人の希望を聴き取るよう努めている。</p>
34	<p>これまでの暮らしの把握</p> <p>一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている</p>	<p>その方らしい暮らしや尊厳を支える為、日頃の生活の中で、本人・家族にアセスメントを行い、生い立ち・生活歴・趣味・生きがい等の把握に努めている。</p>	
35	<p>暮らしの現状の把握</p> <p>一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状を総合的に把握するように努めている</p>	<p>センター方式によるアセスメント・ツールを活用、24時間その時関わったスタッフにより記録され、現状の把握に努めている。</p>	
<b>2.本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し</b>			
36	<p>チームでつくる利用者本位の介護計画</p> <p>本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している</p>	<p>センター方式の取り組み、毎日の申し送り、定期的（随時）なモニタリング、又、フロアごとの会議を通し、共通の視点に立った支援に取り組んでいる。</p>	<p>担当者が2ヶ月に1度、ご家族へ連絡、現在の状態、状況等を報告すると共にケアプランの内容を伝え、直接、意向・要望を伺い、内容についてスタッフ間で話し合い、課題・ケアについて検討している。</p>
37	<p>現状に即した介護計画の見直し</p> <p>介護計画の期間に応じた見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している</p>	<p>毎日の現場でのケア、申し送りを通し、現状に即した対応・ケアが提供できる様、必要・随時、見直し対応をしている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
38 個別の記録と実践への反映  日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	個人ファイルに24時間を通し、その時々の状態や変化、気づきや工夫について、個別に記録し、介護計画の見直しに活かしている。		ご家族と密に連絡を取り要望・意見を聴く。
<b>3. 多機能性を活かした柔軟な支援</b>			
39 事業所の多機能性を活かした支援  本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	四季の変化を感じる生活をホームの生活に取り入れるため、四季の食材の取り入れ、行事、衣替え、お出かけ等、利用者さんの生活に潤いを持たせるよう、支援に気配りを行っている。		
<b>4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働</b>			
40 地域資源との協働  本人の意向や必要性に応じて、民生委員やボランティア、警察、消防、文化・教育機関等と協力しながら支援している	地元の美術館や自然公園、市民祭り等、地域の催しに参加・見学し、近隣のスーパー等毎日、出掛け、挨拶や会話を通し、地域との関わりを図っている。		
41 他のサービスの活用支援  本人の意向や必要性に応じて、地域の他のケアマネジャーやサービス事業者と話し合い、他のサービスを利用するための支援をしている	買い物、外食、散歩等、施設外の社会との触れ合い・交流の機会作りに配慮している。デイサービスの昼食を取りいれたり、デイサービスへの行事参加により、地域の高齢者との触れ合いも行って頂き、社会的交流の機会作りを大切にしている。		
42 地域包括支援センターとの協働  本人の意向や必要性に応じて、権利擁護や総合的かつ長期的なケアマネジメント等について、地域包括支援センターと協働している	運営推進会議等を通し、意見・情報を交換、又、助言等を求め、話し合いの場を設けている。		2ヶ月に1回、運営推進会議を開催するようになりたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
43 かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	週1回の往診、状態の急変時に備え、24時間対応により健康管理を行うと共に、必要に応じ医療機関へ紹介により適切な医療を支援している。		
44 認知症の専門医等の受診支援 専門医等認知症に詳しい医師と関係を築きながら、職員が相談したり、利用者が認知症に関する診断や治療を受けられるよう支援している	担当医(Dr)が認知症研修を受けられ、ふれあい日誌等を通し、状態の変化等、詳しく報告し、診断・治療を受けて頂いている。		
45 看護職との協働 利用者をよく知る看護職員あるいは地域の看護職と気軽に相談しながら、日常の健康管理や医療活用の支援をしている	社内に看護職が常駐していないため、看護職との協働は殆どないが、週一度、薬剤師に健康・服薬状態、薬の無い様について話を伺ったり、解からない事を相談している。		
46 早期退院に向けた医療機関との協働 利用者が入院した時に安心して過ごせるよう、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて連携している	入院中の医療機関と連絡を取り合い、退院前に訪院し、直接医師から状態の説明を受け、又、退院後の医療面における対応(介護サマリー)等について話し合っている。		
47 重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	医療対応方針をあげ、方針についてスタッフ全員で共有している。		
48 重度化や終末期に向けたチームでの支援 重度や終末期の利用者が日々をより良く暮らせるために、事業所の「できること・できないこと」を見極め、かかりつけ医とともにチームとしての支援に取り組んでいる。あるいは、今後の変化に備えて検討や準備を行っている	ホーム内に看護体制が無い為、急性期の疾病対応は、治療機関への入院をお願いせざるを得ないが、治療の必要のない終末対応は、ホームとしても対応する事をスタッフとして確認している。当フロアーには、現時点では、ターミナルケアの希望者は無い。		本人やご家族の意向を踏まえ、医療機関との連携を図りながら、可能な限りホームでの生活を支援していきたい。

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
49	<p>住み替え時の協働によるダメージの防止</p> <p>本人が自宅やグループホームから別の居所へ移り住む際、家族及び本人に関わるケア関係者間で十分な話し合いや情報交換を行い、住み替えによるダメージを防ぐことに努めている</p>	<p>関係者間と十分な話し合いや情報交換を行い、関係者間の連携と協働により、ダメージ防止に取り組んでいる。</p>	
<p>・その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</p>			
<p>1. その人らしい暮らしの支援</p>			
<p>(1) 一人ひとりの尊重</p>			
50	<p>プライバシーの確保の徹底</p> <p>一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない</p>	<p>言葉掛けや対応の仕方について、当社の基本理念の一つに「尊厳を保つ」ことが掲げられていることから、ホームの基本理念の実践の一つとして励行している。</p>	
51	<p>利用者の希望の表出や自己決定の支援</p> <p>本人が思いや希望を表せるように働きかけたり、わかる力に合わせた説明を行い、自分で決めたり納得しながら暮らせるように支援をしている</p>	<p>対応する職員の言葉遣い、表情、声のトーン、目線等に注意し、解かる様に説明し、利用者の意思や希望が表出し易く・自己決定が出来る様支援している。</p>	
52	<p>日々のその人らしい暮らし</p> <p>職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している</p>	<p>その日の体調や気分、心身状態の詳しい申し送りにより、その時々に合わせてきめ細かなケアを日常的に支援している。</p>	
<p>(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援</p>			
53	<p>身だしなみやおしゃれの支援</p> <p>その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援し、理容・美容は本人の望む店に行けるように努めている</p>	<p>各入居者が自分の好みに合わせた洋服等を身に付け、見綺麗に過ごせる様配慮している。又、理美容については、本人の望む店を利用され、希望の店が無い方には、月1度の訪問理美容を利用させて頂いている。</p>	

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
54	<p>食事を楽しむことのできる支援</p> <p>食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている</p>		
55	<p>本人の嗜好の支援</p> <p>本人が望むお酒、飲み物、おやつ、たばこ等、好みのものを一人ひとりの状況に合わせて日常的に楽しめるよう支援している</p>		
56	<p>気持ちよい排泄の支援</p> <p>排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして気持ちよく排泄できるよう支援している</p>		
57	<p>入浴を楽しむことができる支援</p> <p>曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している</p>		
58	<p>安眠や休息の支援</p> <p>一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、安心して気持ちよく休息したり眠れるよう支援している</p>		
(3)その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援			
59	<p>役割、楽しみごと、気晴らしの支援</p> <p>張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
60	<p>お金の所持や使うことの支援</p> <p>職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している</p>		
61	<p>日常的な外出支援</p> <p>事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している</p>		
62	<p>普段行けない場所への外出支援</p> <p>一人ひとりが行ってみたい普段は行けないところに、個別あるいは他の利用者や家族とともに出かけられる機会をつくり、支援している</p>		
63	<p>電話や手紙の支援</p> <p>家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている</p>		
64	<p>家族や馴染みの人の訪問支援</p> <p>家族、知人、友人等、本人の馴染みの人たちが、いつでも気軽に訪問でき、居心地よく過ごせるよう工夫している</p>		
(4)安心と安全を支える支援			
65	<p>身体拘束をしないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が「介護保険法指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、身体拘束をしないケアに取り組んでいる</p>		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
66	<p>鍵をかけないケアの実践</p> <p>運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる</p>		
67	<p>利用者の安全確認</p> <p>職員は本人のプライバシーに配慮しながら、昼夜通して利用者の所在や様子を把握し、安全に配慮している</p>		
68	<p>注意の必要な物品の保管・管理</p> <p>注意の必要な物品を一律になくすのではなく、一人ひとりの状態に応じて、危険を防ぐ取り組みをしている</p>		<p>常に必要な物以外は倉庫など収容場所にて保管、又、洗剤類のような液体は飲み物と間違わない様な容器を使用し、不要な時は見えない場所で保管。</p>
69	<p>事故防止のための取り組み</p> <p>転倒、窒息、誤薬、行方不明、火災等を防ぐための知識を学び、一人ひとりの状態に応じた事故防止に取り組んでいる</p>		<p>利用者個々の習慣・癖を観察し、スタッフ間で情報の共有化を図り、問題に迅速に対応し、大事故に繋がらない様心掛けている。</p>
70	<p>急変や事故発生時の備え</p> <p>利用者の急変や事故発生時に備え、全ての職員が応急手当や初期対応の訓練を定期的に行っている</p>		
71	<p>災害対策</p> <p>火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている</p>		<p>定期的に災害を想定した避難訓練を実施している。</p>

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
72	<p>リスク対応に関する家族等との話し合い</p> <p>一人ひとりに起こり得るリスクについて家族等に説明し、抑圧感のない暮らしを大切にされた対応策を話し合っている</p>		
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援			
73	<p>体調変化の早期発見と対応</p> <p>一人ひとりの体調の変化や異変の発見に努め、気付いた際には速やかに情報を共有し、対応に結び付けている</p>		
74	<p>服薬支援</p> <p>職員は、一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている</p>		
75	<p>便秘の予防と対応</p> <p>職員は、便秘の原因や及ぼす影響を理解し、予防と対応のための飲食物の工夫や身体を動かす働きかけ等に取り組んでいる</p>		<p>身体を動かすことにより、便秘を予防し、又、排泄介助が必要な方には、先の内容に加え、朝食後のトイレ誘導を習慣づけし、出来るだけ薬剤を使用しないようなケアに留意している。</p>
76	<p>口腔内の清潔保持</p> <p>口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や力に応じた支援をしている</p>		<p>週に1回、訪問歯科により口腔ケアを、又、必要な方には治療を行って頂いている。</p>
77	<p>栄養摂取や水分確保の支援</p> <p>食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている</p>		<p>利用者の好きな物を選んで頂き、何時でも水分摂取をして頂ける様環境作りをしている。食事に関しても利用者メニューを考え、好まれない食材があれば、個々に合わせた対応(代替りの食材を使用する等)をしている。</p>

項 目		取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいきたい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
78	感染症予防  感染症に対する予防や対応の取り決めがあり、実行している（インフルエンザ、疥癬、肝炎、MRSA、ノロウイルス等）	感染症に対する勉強会を行っている。又、換気・温度・湿度調整・手洗い・うがい等を行い、ジアンック等の消毒剤を使つての清掃、ペーパータオル・マスク・ゴム手袋・エプロンの使用等、職員が感染媒体になる危険性を含めて、汚染物の殺菌・小まめな洗濯等、感染予防に努めている。		
79	食材の管理  食中毒の予防のために、生活の場としての台所、調理用具等の衛生管理を行い、新鮮で安全な食材の使用と管理に努めている	冷蔵庫内の食材は常にチェックし、賞味期限切れ等に注意している。又、まな板等は、ハイター消毒し、衛生的に努めている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり				
(1) 居心地のよい環境づくり				
80	安心して出入りできる玄関まわりの工夫  利用者や家族、近隣の人等にとって親しみやすく、安心して出入りができるように、玄関や建物周囲の工夫をしている	玄関先のコルクのポストや植木・花を置き、親しみの持てる家庭的な空間を作っている。入り口を入ると2～3人掛けの椅子があり、下駄箱の上には季節を感じる植物や小物を置き心の癒し作り工夫している。		
81	居心地のよい共用空間づくり  共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	居間のソファーには、レースのカーテン越しに、柔らかい日差しが入り、椅子やテーブル・テレビ等の配置に工夫、ベランダには沢山の植物、又、長椅子が置かれ、景色や喫茶を楽しむ空間となり、金魚等も飼育している。		
82	共用空間における一人ひとりの居場所づくり  共用空間の中には、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	喫煙場所として、木製のテーブルと椅子を配置し、トイレ前や踊り場、ベランダ等、所々に自由に腰を掛け、過ごせる場所を設けている。		

項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	印 (取組んでいき たい項目)	取組んでいきたい内容 (すでに取組んでいることも含む)
83	<p>居心地よく過ごせる居室の配慮</p> <p>居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好きのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている</p>		
84	<p>換気・空調の配慮</p> <p>気になるにおいや空気のだよみがないよう換気に努め、温度調節は、外気温と大きな差がないよう配慮し、利用者の状況に応じてこまめに行っている</p>		
(2)本人の力の発揮と安全を支える環境づくり			
85	<p>身体機能を活かした安全な環境づくり</p> <p>建物内部は一人ひとりの身体機能を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している</p>		
86	<p>わかる力を活かした環境づくり</p> <p>一人ひとりのわかる力を活かして、混乱や失敗を防ぎ、自立して暮らせるように工夫している</p>		
87	<p>建物の外周りや空間の活用</p> <p>建物の外周りやベランダを利用者が楽しんだり、活動できるように活かしている</p>		

(  部分は外部評価との共通評価項目です )

. サービスの成果に関する項目		3F
項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こ と )
88	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる	ほぼ全ての利用者の 利用者の2/3くらいの 利用者の1/3くらいの ほとんど掴んでいない
89	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある	毎日ある 数日に1回程度ある たまにある ほとんどない
90	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
91	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
92	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
93	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
94	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
95	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができています	ほぼ全ての家族と 家族の2/3くらいと 家族の1/3くらいと ほとんどできていない
96	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている	ほぼ毎日のように 数日に1回程度 たまに ほとんどない

項 目		取 り 組 み の 成 果 ( 該 当 する 箇 所 を 印 で 囲 む こと )
97	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている	大いに増えている 少しずつ増えている あまり増えていない 全くいない
98	職員は、生き活きと働けている	ほぼ全ての職員が 職員の2/3くらいが 職員の1/3くらいが ほとんどいない
99	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての利用者が 利用者の2/3くらいが 利用者の1/3くらいが ほとんどいない
100	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	ほぼ全ての家族等が 家族等の2/3くらいが 家族等の1/3くらいが ほとんどできていない

**【特に力を入れている点・アピールしたい点】**  
 (この欄は、日々の実践の中で、事業所として力を入れて取り組んでいる点やアピールしたい点を記入してください。)